

農福連携

「誰もが社会の一員として活躍できる農福連携」の実践

京都府京田辺市

さんさん山城（社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会）



取組内容

- 宇治茶の手摘みや「エビイモ」の手掘りなど、障害者の手作業等により、高品質な京都の伝統野菜等を生産。また、これらを活用し付加価値性の高い加工品の開発、販売も行う。更に、併設のコミュニティカフェでは、メニュー作りから接客、調理まで障害者が中心となり行う。なお、令和3年4月に認定農業者となる。
- 令和元年にノウフクJAS(第1号)認証の取得。令和2年、新たに仲卸業者との取引が始まり、祇園の料亭や高級ホテルに食材を卸すなど、販路を拡大。JGAP認証も取得し持続可能な農業を推進。

取り組みに至った経緯

- 都市開発と高齢化で農業の衰退が著しく、障害者が地域の一員として活躍・貢献できる仕事として農業にチャレンジ。



宇治茶の手摘み作業

取組の成果(受賞等)

- R3 ノウフクアワード2020優秀賞(主催:農福連携等応援コンソーシアム)
- R2 グッドライフアワード環境大臣賞(NPO・任意団体部門)(主催:環境省)等

今後の展望

- これまで築き上げた地域との関係や作業ノウハウを活かして、人手のかかる農作業並びに農地管理など、地域が抱える農業課題を地元の福祉事業所間で共有・連携し、解決に繋げていくシステムを構築。
- 障害者だけでなく引きこもりや触法者などの受け入れも行き、「誰もが社会の一員として活躍できる農福連携」を実践。
- 各方面の研究機関と連携をはかり「農福連携」が学問分野の一つとなって、障害者も高等教育機関で学ぶことができ、ひいては障害者が地域で活躍できる社会を創造。